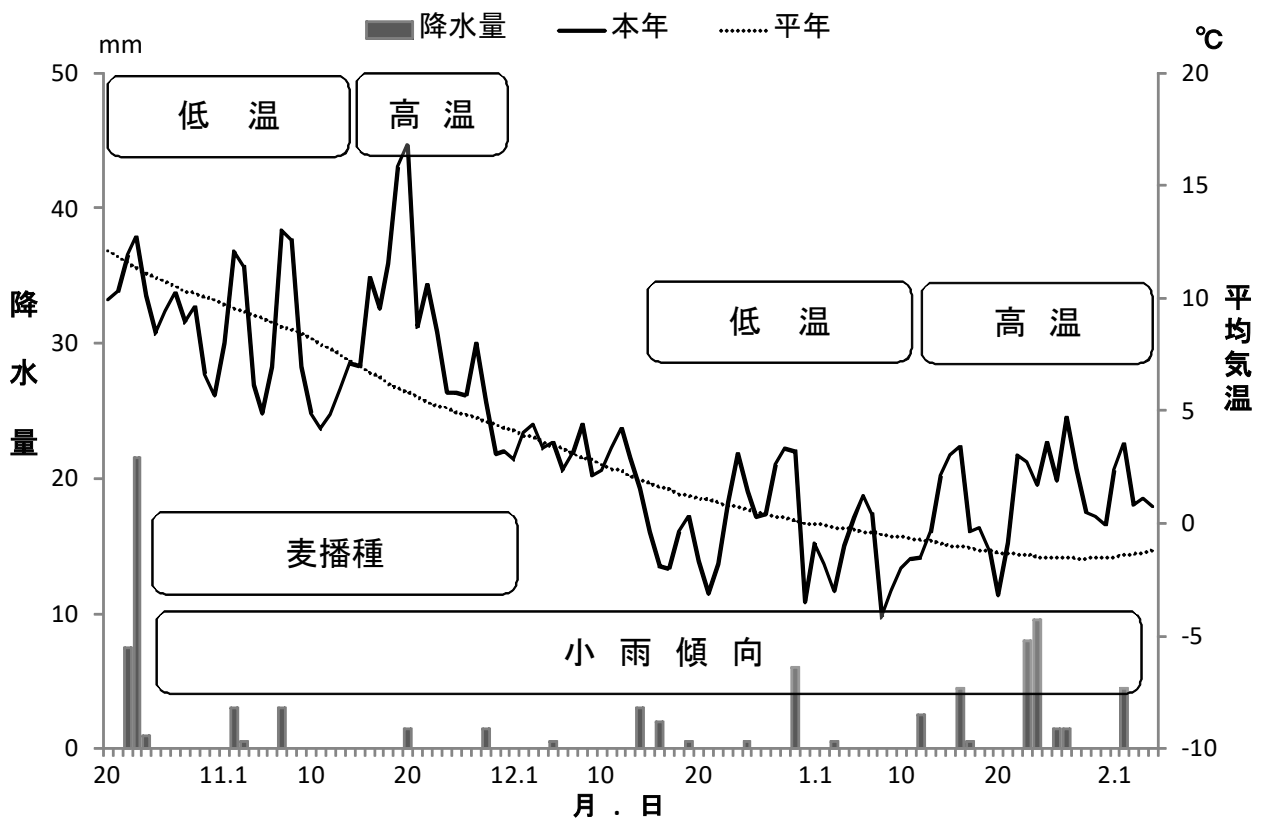


令和3年 作物技術情報第2号 (麦の1回目の追肥作業について)

1 気象状況

令和2～3年気象経過(穂高アメダス 10月20日～2月5日)



- ・ 1月上旬まで低温傾向でしたが、1月中旬以降は高温で推移しています。2月の気温も高温傾向が予想されています。
- ・ 断続的に降雨・降雪があるものの、降水量は少ない状況です。

2 現在の麦の生育状況

- ・管内の麦の生育状況は、概ね以下のとおりです。
- ・12月下旬～1月上旬が低温だったため、10月下旬播種を除き、生育の進みはやや遅れており、茎数もやや少ない状況です。
- ・特に、大豆収穫後の11月下旬播種では、茎数はかなり少ない状況です。

表1 越冬後の生育状況（2月1～3日調査）

播種日	葉令	分けつ	茎数 (m ²)	生育	備考 (生育量)
10月下旬	5～6	3	800～1000本	良 (過剰ぎみ)	並～やや過剰
11月上旬	4～5	2	500～600本	やや良～良	並～やや少
11月中旬	3葉前後	0～1	400～500本	やや良～やや不良	やや少
11月下旬	2葉前後	0	200～300本	不良～やや不良	少～極少

- ・松本市・塩尻市方面の麦は、安曇野市方面より生育はやや遅れていますが、2月以降は高温傾向が予想されていますので、生育は回復してくると思われます。昨年のような過剰生育にはならないと思いますが、今後の生育状況にはご注意ください。

3 麦の1回目の追肥作業について

～～2回の追肥が麦栽培の基本です～～

- 1回目の追肥：越冬後～茎立期追肥（2月末～3月）
目的は茎数確保→穂数確保→収量確保です
- 2回目の追肥：止葉展開期追肥（4月末～5月上旬）
目的は粒の肥大・タンパク向上による品質向上です。

表2 追肥時期別の追肥効果

追肥時期	生育回復	茎数増加	穂数増加	1穂着粒数	収量向上	粒の肥大	タンパクの向上	空洞粒の減少	倒伏増加
越冬後	◎	◎	◎	△	◎	—	—	△	●
幼穂形成期	△	○	○	○	◎	—	—	△	●
茎立期	—	△	△	○	◎	△	△	△	▲
止葉展開期	—	—	—	△	△	◎	◎	○	—

注)◎:効果大、○:効果やや大、△:効果あり、—:効果なし、●▲は悪影響

(1) 1回目の追肥時期と追肥量について

- 1) 「越冬後の1回目の追肥」が穂数確保(収量確保)のために重要なので、2月中旬以降に圃場を観察していただき、麦の生育量にあわせた追肥をお願いします。
- 2) 越冬後の生育量と越冬後1回目の追肥時期・量については表3や、越冬後の麦生育チャート「越冬後㎡当茎数と1回目追肥時期・量の目安」を判断の目安としてご活用ください(支援センターのホームページに掲載してあります)。
- 3) 2回目の追肥は、止葉展開期の生育状況(茎数)に応じて、窒素成分で2~3kg/10a施用します(パン用品種「ゆめかおり」は、出穂後に窒素成分で3~5kg/10aを施用)。
2回目の追肥時期と追肥量については、3月以降の技術情報でお伝えします

表3 越冬後の生育量と麦の1回目追肥時期・量の目安

生育状況	越冬後の茎数 (2月中旬~3月上旬)		追肥時期 追肥量 N:kg/10a (硫安kg/10a)		追肥の目的及び効果
	見た目	㎡あたり茎数			
極少	2葉程度 (出芽したが分けつ していない)	200本以下	2月末 N 4~5 (20~25)		追肥量を増やし、時期も早めて茎 数を増やす → 穂数確保
			または 2月末 N 2~3 (10~15) 3月中旬 N 1~2 (5~10)		
少ない	3cm幅位の帯状 所々とぎれている	200~300本 前後	3月初旬 N 4 (20)		追肥量を増やし、時期も早めて茎 数を増やす → 穂数確保
やや少ない	3cm幅位の帯状	400~500本 前後	3月上旬 N 4 (20)		追肥量を増やし、時期も早めて茎 数を増やす → 穂数確保
並 (良好)	5cm幅位の帯状 所々とぎれている	600~700本 前後	3月上~中旬 N 3 (15)		適正穂数確保と穂の充実
並(良好)	5cm幅位の帯状	700~800本 前後	3月上~中旬 N 2 (10)		適正穂数確保と穂の充実
多い	10cm幅位の帯状	1,000本以上	3月中旬 N 1~0 (5~0)		追肥量を減らし、時期も遅らせる。 場合によっては追肥しない。 → 茎数過多・過繁茂の抑制

(2) 麦追肥1発肥料・一施肥二鳥を用いた省力栽培について

～～2回目の追肥をしない省力的な体系です～～

	施肥体系	◎ 1回目の追肥(10a当) (越冬後 3月上中旬)	◎ 2回目の追肥(10a当) (止葉展開期:4月末～)
慣行体系	基肥 BB or エルちゃん + 慣行追肥 体系	N 2～4kg 硫安 10～20kg	N 2～3kg 硫安 10～15kg
省力体系	基肥 BB or エルちゃん + 麦追肥一発 体系	N 6 麦追肥一発肥料 20kg	まかない
省力体系	基肥 一施肥二鳥 + 追肥 1 回 体系	N 2～3kg 硫安 10～15kg	まかない

注) 上表のN(窒素量)は「大麦・めん用品種」の場合です。

パン用品種の場合は、追肥一発肥料は30kg/10a施用してください。

1) 麦追肥一発肥料を使用する場合の注意点

【大麦・めん用小麦】の場合

- ① 生育過剰な圃場(畝間が見えないような圃場: 茎数 1000本/㎡以上)
 - ・倒伏の恐れがあるので、慣行追肥体系とすることが望ましいと思われます。
 - もし追肥一発肥料を使用する場合は、施肥量を減らして、追肥一発肥料で10kg/10aとし、施肥時期も通常より遅らせて、3月下旬としてください。
- ② 過剰気味な圃場(茎数 700～800本/㎡以上)
 - ・追肥一発肥料の量を減らして15kg/10aとして、施肥時期も通常より遅らせて、3月中～下旬としてください。
- ③ 生育が並～やや少ない圃場(茎数 400～700本/㎡未満)
 - ・追肥一発肥料は基準量(20kg/10a)を施肥してください。施肥時期は生育量に応じて3月上～中旬としてください。
- ④ 生育が小～極小な圃場(茎数 300本/㎡未満 分けつしていない)
 - ・まず、茎数早期回復用の追肥を2月下旬に硫安で15～20kgを施肥してください。
 - その後3月中旬に、麦一発追肥を15kg/10aを施肥してください。

基肥 BB or エルちゃん + 麦追肥一発 体系

【品種:大麦、めん用小麦】

越冬後の生育量	越冬後の茎数(m ²)	生育早期回復の追肥	追肥一発の追肥	2回目の追肥 (止葉展開期:4月末~)	備考
多 (倒伏の恐れ高い)	1000本以上 (畝間見えない)	まかない	追肥時期(3月下旬) N 3 麦追肥一発肥料 10kg	まかない	慣行追肥体系に変更することが望ましい
やや多	700~800本	まかない	追肥時期(3月中~下旬) N 4.5 麦追肥一発肥料 15kg	まかない	
並~やや小	400~700本	まかない	追肥時期(3月上~中旬) N 6 麦追肥一発肥料 20kg	まかない	
小~極小	300本以下	追肥時期(2月下旬) N 3~4kg 硫安 15~20kg	追肥時期(3月中旬) N 4.5 麦追肥一発肥料 15kg	まかない	

【パン用小麦：ゆめかおり】の場合

- ① 生育過剰な圃場（畝間が見えないような圃場：茎数 900 本/m²以上）
 - ・倒伏の恐れがあるので、慣行追肥体系とすることが望ましいと思われる。
もし追肥一発肥料を使用する場合は、施肥量を減らして、追肥一発肥料で 15kg/10a とし、施肥時期も通常より遅らせて3月末としてください。
- ② 過剰気味な圃場（茎数 700~800 本/m²以上）
 - ・追肥一発肥料の量を減らして20kg/10a とし、施肥時期も通常より遅らせて、3月中~下旬としてください。
- ③ 生育が並~やや少ない圃場（茎数 400~700 本/m²未満）
 - ・追肥一発肥料は基準量（30kg/10a）を施肥してください。施肥時期は生育量に応じて3月上~中旬としてください。
- ④ 生育が小~極小な圃場（茎数 300 本/m²未満 分けつしていない）
 - ・まず、茎数早期回復用の追肥を2月下旬に硫安で15~20kgを施肥してください。
その後3月中旬に、麦一発追肥を15~20kg/10aを施肥してください。

基肥 BB or エルちゃん + 麦追肥一発 体系

【品種:パン用小麦 ゆめかおり】

越冬後の生育量	越冬後の茎数(m ²)	生育早期回復の追肥	追肥一発の追肥	2回目の追肥 (出穂~開花期:5月上旬)	備考
多 (倒伏の恐れ高い)	900本以上 (畝間が不明瞭)	まかない	追肥時期(3月末) N 4.5 麦追肥一発肥料 15kg	まかない	慣行追肥体系に変更することが望ましい
やや多	700~800本	まかない	追肥時期(3月中~下旬) N 6 麦追肥一発肥料 20kg	まかない	
並~やや小	400~600本	まかない	追肥時期(3月上~中旬) N 9 麦追肥一発肥料 30kg	まかない	
小~極小	300本以下	追肥時期(2月下旬) N 3~4kg 硫安 15~20kg	追肥時期(3月中旬) N 4.5 麦追肥一発肥料 15kg	まかない	

2) 基肥に一施肥二鳥を使用している場合の注意点

茎数確保のため、越冬後の生育状況にあわせて硫安を施肥してください。

追肥時期・追肥量については下表を参考にしてください。

基肥 一施肥二鳥 + 追肥1回 体系
【品種: 大麦、小麦】

越冬後の生育量	越冬後の茎数(m ²)	茎数確保の追肥	2回目の追肥 (止葉展開期: 4月下旬~)	備考
多 (倒伏の恐れ高い)	1000本以上 (畝間見えない)	追肥時期(3月中旬) N 0~1kg 硫安 0~ 5kg	まかない	茎数確保の追肥は行わないことが望ましい
やや多	700~800本	追肥時期(3月上旬) N 1~2kg 硫安 5~10kg	まかない	
並~やや小	400~600本	追肥時期(3月上旬) N 2~3kg 硫安 10~15kg	まかない	
小~極小	300本以下	追肥時期(2月下旬) N 3~4kg 硫安 15~20kg	まかない	

3) その他の注意事項

- 1) 過繁茂で著しく黄化している場合で、1回目追肥まで間がある場合は、葉色回復を目的として、1回目追肥とは別に、硫安でN 1 k g / 1 0 a程度を施肥してください。
- 2) 「しゅんよう」「ゆめかおり (パン用品種)」は茎数が増えやすい品種なので、施肥量には注意して下さい。
多追肥 → 茎数過多 → 穂数過多 → 倒伏
- 3) 塩安を使用する場合、硫安より窒素成分が高い (2 5 %) なので、まき過ぎに注意して下さい。

N5kg→塩安 20kg、 N4kg→塩安 16kg、 N3kg→塩安 12kg、 N2kg→塩安 8kg
硫安 25kg →硫安 20kg →硫安 15kg →硫安 10kg

4) 積雪時の麦追肥について

- ① 基本的には、雪がとけて麦の生育状況を見てから、追肥時期・量を判断して追肥してください。

積雪で判断が難しい場合は播種時期と麦生育チャートをご参考ください。

- ② 雪どけを待つと追肥時期を逃す場合や、雪どけのぬかるみや停滞水で、施肥作業が困難になる場合は、ほ場状況を見て作業が可能なら、多少の積雪があるうちに追肥を行っても差し支えありません。

この場合、ほ場での播きムラにご注意ください。また、積雪中での作業になるので、用水路やほ場への転落・転倒に十分注意して作業してください。

ブロードキャスター等で追肥作業する場合は、雪や土の締まっている午前中に作業してください（作業時のぬかるみ防止）。

4 湿害対策

- ・ カミ雪のように一時的な大雪の場合は、その後の降雨や気温上昇に伴い、一気に融雪して圃場が湛水してしまう場合があります（写真）。
このような圃場は湿害を受けやすくなります。これからカミ雪の季節を迎えるので注意が必要です。
- ・ 水口は止まっているか（水路からの雪解け水の流入防止）、排水口・排水路はつまっていないか（圃場の停滞水防止）を今一度確認していただき、湿害対策に万全を記していただくようお願いします。

